

特定非営利活動法人
大阪市地域福祉施設協議会

総 会 議 案 書

日時：2022年（令和4年）5月31日（火）

場所：大阪市社会福祉センター 301号室

◆ 議 案 ◆

- ① 2021年度事業報告
- ② 2021年度決算報告
- ③ 監 査 報 告
- ④ 2022年度事業計画案
- ⑤ 2022年度事業予算案
- ⑥ そ の 他

2021年度 事業報告（案）

1. 総会、役員会、委員会の活動

- ① 総会の開催〈書類審議〉 5月31日（月）
- ② 役員会の開催 4月28日（火）、7月2日（金）、8月26日（木）、
9月16日（木）、10月11日（月）、11月2日（火）、
3月3日（木）
- ③ 施設長会の開催 新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず
- ④ 各種委員会の開催
- ◆ 定例企画委員会 事業等の企画・運営・調整
 - ◆ 拡大企画委員会 事業等の企画・運営
 - ◆ 研修委員会 各種分野別研究会等の計画・実施
 - ① 地域の子ども研究会
 - ② 地域の子育て支援研究会
 - ③ 地域の障がい児・者研究会
 - ④ セツルメント研究会
 - ◆ 自然体験施設事業委員会 ① びわこ青柳浜 セツルの家の運営と活動
ワークキャンプ活動
② びわこセツルの家改修工事
- 《 特別委員会 》
- ◆ バザー実行委員会 第22回自然体験施設応援バザーの企画・運営
 - ◆ 全国研修会準備委員会 日地協主催 第26回全国地域福祉施設研修会大阪大会
 - ◆ 全国児童部会準備委員会 日地協主催 第20回全国地域福祉施設研修会児童部会

2. 年間行事

5月 16日	ともだちドッジボール大会	延 期
5月 30日	大阪市地域福祉施設協議会総会	書 面 審 議
7～ 8月	びわこキャンプ場 セツルの家の利用	滋賀県大津市青柳浜
11月 14日	ともだちフェスティバル& ともだちドッジボール大会	長 居 公 園
11月 28日	第20回 全国地域福祉施設研修会児童部会	長 居 保 育 園 (Zoom 併用)
1月 8日	こども将棋大会	
1月 日	新 年 会	中 止
1月 日	第22回 自然体験施設応援バザー	中 止
2月 4日	第63回 大都市社会福祉施設協議会 (オンライン)	川 崎 市
2月 20日	第25回 全国地域福祉施設研修会	大 阪 市

3. びわこキャンプ場セツルの家の運営

①年間事業報告

・	5月20日	セツルの家利用打ち合わせ会 (日程調整)	長居保育園
・	7月 4日	セツルの家ワークキャンプ	セツルの家
・	7月 5日	セツルの家開設準備	セツルの家
・	7月～8月	セツルの家夏季利用	セツルの家
・	7月22日	セツルの家消防立ち入り検査	セツルの家
・	8月 2日	セツルの家消防訓練 (やまと保育園)	セツルの家
・	9月 7日	セツルの家夏季利用片付け	セツルの家
・	9月14～15日	中高生キャンプ (中止)	セツルの家
・	9月～3月	セツルの家夏季外利用	セツルの家

②施設整備

- ・ 浜側、駐車場側の草刈り、整備
- ・ 浜東側、溝の清掃、草刈り、整備
- ・ 倉庫天井換気扇設置工事
- ・ 本棟室内脚折り畳みテーブル 5台購入

③利用施設

- ・ 施設利用 14施設
- ・ 個人利用 3組

④利用泊数

- ・ 宿泊利用 23泊
- ・ 日帰り利用 3日
- 利用延べ人数 1,276人

(今年度は新型コロナウイルス禍での利用となり、泊数、利用人数が減少する)

⑤利用施設からのアンケート

- ・ 豪雨になると浜が狭く水たまりが増え、駐車場も水浸しになる。
- ・ 落雷に注意が必要。
- ・ 万全の熱中症対策が必要。
- ・ 空気清浄機、エアコンで快適に過ごすことが出来た。
- ・ 野良猫が玄関、倉庫に近づいて入ってゴミを荒らす。
- ・ 電気(冷房、電灯など)ガス、冷蔵庫内など利用の節目には確認をしてほしい。
- ・ 水難事故の注意喚起のため駐在所の訪問を受ける
(隣の水上バイクの方たちに注意をしてくれる)。

⑥担当

宮川、竹内 (長居保育園)

4. ワークキャンプ

①活動報告

- ・ 7月4日（日）、琵琶湖セツルの家を拠点としたワークキャンプ活動を実施

5. 自然体験施設応援バザー

①第22回 自然体験施設応援バザー

- ・ 2021年度自然体験施設応援バザーについて、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止の観点から中止とする。
- ・ 自然体験施設応援バザーの本来の目的である繋がりや施設間の交流という意図を大切に、大地協のロゴマーク、キャラクターデザインなどを公募、選定し、物販の計画をする。（※新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月末時点で一時中断している。新型コロナウイルス感染者数の減退状況により再開を次年度に持ち越すこととなる。）

6. 調査活動

○調査名

「新型コロナウイルス感染拡大に対応する地域福祉施設の現状調査（2回目）」

○期間

令和4年1月13日～1月31日

○対象

NPO 法人大地協会員施設の管理者および職員（回答には Google フォームを使用）

○趣旨（抜粋）

令和2年8月に実施しました「新型コロナウイルス感染拡大に対応する地域福祉施設の現状調査」につきましては、多くの皆さまにご回答いただき、誰も経験したことのない状況の中、社会福祉施設としての役割を考えていく上で、参考にされた方もあったかと思えます。

今回は、その継続調査といたしまして、オミクロン株をはじめ感染が再び拡大しつつある現状の中ではありますが、「新たな生活様式」の中で生まれはじめた多様な取り組みや前向きな視点を調査させていただきたいと思えます。

本調査では、①人的交流（ボランティア・職員対利用者・職員対家族・職員同士など）のこと、②前向きな意見・声を聞かせていただくこと（やってみたいこと、取り組んでみたいこと、取り入れてほしいことなど）の2点を中心に設問を設定させていただいています。各施設、各職員の皆さまが、多くの制限の中で利用者主体を考え、

工夫し、実践されてきたことをお聞かせいただき、それらをお互いに共有することで、2月の全国研修会のテーマでもあります、「共生（とも）にあゆむ」の一助になればと考えています。

○結果

令和4年2月の全国地域福祉施設研修会内のポスター発表として、ダイジェスト版をホームページに掲載

施設長、管理者向けアンケート：回答9施設

職員向けアンケート：回答数48名

○その他

- ・ 調査を計画している時期（11月頃）と、実際に回答をしてもらう時期（1月）では、オミクロン株の流行により、状況が大きく異なった。どの施設とも、職員がコロナ関連の対応に追われ、回答を得るのが難しい状況であった。

7. 職員の研修会の開催・参加

① 全国地域福祉施設研修会 第20回児童部会

- ◆ 日 程 2021年11月28日（日）
- ◆ 開催場所 大阪市 長居保育園（Zoomを併用での開催）
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会
大阪市地域福祉施設協議会

② 2020年度 第26回全国地域福祉施設研修会

- ◆ 日 程 2022年2月26日（土）
- ◆ 開催場所 大阪市 大阪市社会福祉研修・情報センター
（Zoomを併用での開催）
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会
大阪市地域福祉施設協議会

③ 全体研修会（地域福祉研修会）の実施

- ・ 新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止の為、実施せず。

8. 各種分野別研究会

I 地域の障がい児・者研究会

①活動方針

- 「地域の中で暮らしていく上での問題とは何かを明確にする」－発見
- 「地域の中で暮らしていく上ではどのような支援が必要なのかを明確にする」－実践
- 「共に学び、共に語る」－対等

②活動報告

(1) 研究会の開催

- ・全9回 ZOOMにて開催。フリードーク形式 (20:00～21:30)

	日時	内容	参加者
第1回	5/26	・「気になるとは… 子どものどのようなところが、なぜ気になるのか」 ～施設の事例発表・自尊感情について～	7名
第2回	6/22	・「あなたは健常者ですか、と聞かれて何と答えますか？」 ・事例発表 「怒りの表現への対応について」 「急にパニックになる子どもの対応について」	10名
第3回	7/20	・「憲法25条と13条と福祉について」 ～NPO法人抱僕(ほうぼく)の活動から学びを深める～	5名
第4回	8/26	・「障がいのある方の子育てについて考える」 ～コーダ(CODA・KODA)の事例などから～	8名
第5回	9/14	・『障がいのある方とその「きょうだい」』 ～きょうだい、クイア理論などについて学ぶ～	7名
第6回	10/26 (19:30 ～21:00)	・「子どもの育ちの中で障がいを考える 子どもの権利条約の視点で…」 ゲストスピーカー：子育て運動えん代表 関口 淑枝氏	8名
第7回	11/17	・「それぞれの現場から、こんな場面どうしますか？」 ～施設の事例から～	7名
第8回	1/25	・「東京地下鉄放火殺傷事件、大阪放火殺人、東大殺傷事件、 この3つの事件の話を深め、社会構造や背景を考える」	7名
第9回	3/1	・「ギリギリを生きる紙一重な自覚と無自覚の境界とは」 ～様々な事例からギリギリの状況について考える～	7名

Ⅱ 地域の子ども研究会

○地域の子ども研究会目的『地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す』

①年間テーマ

『それぞれの経験を伝えあう場に』

②活動報告

(1) 研究会の開催について

- ・研究会実施回数：29回（年間予定内の金曜日（おおよそ隔週））
- ・開催時間：10：00～12：00
- ・会場：研究会参加施設（うち16回はZOOMにて開催）
- ・人数：11名

(2) 研究会内容について

(ア) 子どもたちとの活動報告

○ともだちドッジボール・フェスティバル

- ・日程：11月14日(日)
- ・場所：長居小学校校庭
- ・内容：午前の部／ともだちフェスティバル、
午後の部／ともだちドッジボール大会
- ・参加児童数：245名

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年5月に行っていたドッジボール大会がその時期に行えず、11月のともだちフェスティバルと同日開催で行った。

地域の子どもたちとの交流をねらいに公共の場である公園にて行っていたともだちフェスティバルも、感染予防の観点から小学校をお借りして加盟施設の子どもたちのみを対象に実施した。

2021年度年間の目標であげた「地域の子どもたちとの交流から生まれる子どもたちの出会いとふれあい」、「幅広い層の地域の人たちがともに集える場所となること」は、達成に至らなかった。しかし各地域、小学校等で様々な行事、イベントが中止や縮小されていた時期に、限定的な参加対象となってしまったが、加盟施設の子どもたちが集い、様々な遊びやスポーツを通して交流が出来、温かな歓声と笑顔溢れる大会が出来たことに研究会スタッフ、引率指導員も実施の成功を感じた活動となった。

(イ) 情報交換

参加スタッフの子どもたちとの関わり、保護者支援、環境面、新型コロナウイルス感染症に取り組みながらの各施設の工夫など、日々の悩みや迷いを情報交換という形で共有を行った。自施設内では保育士の方々と共感を得にくい話題やテーマについても、子ども研究会で討議する中で共感してくれる仲間（スタッフ）がいる安心感を得られ、他施設での取り組みを聞き新たな気付きが生まれ、もう少しやってみようという活力に繋がった。

2021年度は参加スタッフの個々の保育実践に基づいた遊びの提案を、研究会時間実践を通して共有してきた。実際の遊びを伝えあう事で即実践に活かすことが出来、参加スタッフのスキルアップに繋がった。

(ウ) 研修活動について

○全国地域福祉施設研修会 第20回児童部会

- ・テーマ『地域とのゆるやかなつながりを居場所に
～子ども食堂の実践から学ぶ～』
- ・日程：2021年11月28日(日) 13:00～16:30
- ・場所：社会福祉法人柿の木福祉の園 長居保育園より ZOOM での配信
- ・参加人数：40名

大阪で子ども食堂を運営している永田華子さんをお招きし、地域での実践や活動への思いから多くの気づきや学びをえる中で、私たち地域福祉施設職員は、地域の中でどのようなつながりを紡ぎ、地域で過ごすすべての子どもたちにどのような活動や居場所が必要なのかを語り合い、私たちに出来ることは何か、地域で新たなアクションを起こすきっかけになればと企画した。

地域のニーズに基づいた実践を柔軟に展開されている報告を受け、地域福祉施設に今何が必要か、何が出来、出来ないのかを改めて自身に問い直す研修であった。研修と研究活動を経て、施設単体では実行が難しい活動も、地域の子どもの研究会でなら施設を越えて行動と熱意と知恵を結集することで、新たな活動を生み出すことが出来るのではないかと、新たな活動を模索してきた。2021年度の研修活動で得たものを2022年度に実践として活動していきたい。

(エ) 研究活動

2021年度は、「子どもの貧困について」、「愛着関係について」、「アンガーマネジメントについて」というテーマで研究を行った。どの研究活動についても、文献等で知識を得るだけでなく、各施設で実践を行い、自身と向き合い、子どもたちとの活動を通して地域を見つめ、気づきや学びを共有し、討議を繰り返し行ってきた。

スタッフだけで行っている研究活動では、時折行き詰まりを感じ、研究の進め方が分からなくなってしまうことも多くあった。そういった中で児童部会などの研修会を通して、様々な職種や役職、他府県の方との討議からヒントを得て、研究を進めてきた。テーマに対して大きく広く知識を得ることはまだまだ難しく課題があるが、今困っている子ども、保護者、地域の方々に対してピンポイントに知りたいことを学ぶことが出来る研究活動になっている。

2022年度も研究団体としての視点を忘れず、参加スタッフと共に学び合っていきたい。

(3) これからの課題

- ・ ZOOM での開催の難しさ
- ・ 参加スタッフの経験を伴う意識共有について
- ・ 地域の子どもの研究会で、改めて地域で実践を行うために

Ⅲ. セツルメント研究会

①ねらい

- ・ セツルメント精神の継承（理論と実践）と新たなビジョンの構築をめざし、社会問題や地域課題への早期発見と早期対応と予防という視点を持ち、研究、研修活動に取り組む。研究活動に関しては、研究誌「地域福祉の諸問題」への掲載など、その成果を広く社会に発信、還元する。
- ・ また、研究活動では、セツルメントの歴史からの学びや、日々の地域福祉実践から見えてきた課題を通して、もう一度地域福祉のアイデンティティを再発見、再構築することで、地域に暮らすすべての人が安心して生活できる社会づくりに向けた調査や学習を行う。

②活動報告

（1）研究活動

- ・ 2021 年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大により、セツルメント研究会としての活動は十分にできなかった。しかし、第 25 回全国地域福祉施設研修会「共生（とも）にあゆむとは」の運営を担い、実行委員会とともに学びを深めた。

（2）研修活動

○研修会の開催

テーマ：『今わたしたちの地域で起きている 格差 分断 排除 を考える』

講師：永岡正己（大地協 特任理事・日本福祉大学名誉教授）

日時：2021 年 9 月 28 日（火）19：00～20：30 on-line にて開催

参加者：6 施設 13 名

内容：

[コロナ禍での各々の施設で感じた格差・分断・排除]

○高齢者施設

- ・ 在宅訪問者の職員のワクチン接種の待遇の差。
- ・ 地域の子どもたちとの交流がなくなった。
- ・ 相談件数の減少。

○保育施設

- ・ 家庭内感染での子ども、保護者の負担。（虐待などが懸念される）
- ・ 職員同士の交流の減少。
- ・ 異年齢児交流の減少。
- ・ 保護者の方が仕事を長期間休まないといけない。
- ・ 子どもたちの成長発達に必要な経験が奪われる。
- ・ 在宅で子育てをしている家庭との接点がなくなる。
- ・ しんどさを抱えた家庭の出産の増加。
- ・ 子どもの育ちにコロナが影響している。

（外出の自粛をすることでの動画などを見る子どもの増加や体力がない子どもの

増加)

- ・ 保護者、子どもの負担
- ・ ひとり親家庭の保護者が仕事に行けないことでおこる貧困。
- ・ 職員の外部研修の減少。
- ・ 地域との接点が持てない。(子育て広場、赤ちゃん広場など)
- ・ 保育園生活の変化(午睡、食事など)
- ・ 保護者同士が繋がるきっかけ作りの場の減少。
- ・ 人と繋がることの難しさ。
- ・ 多国籍家庭へ情報が十分に伝わらない。
- ・ コロナになった人が悪いという差別。

[コロナ禍でもできたこと、工夫していること]

○高齢者施設

- ・ 様々な人の理解を得て百歳体操などできることは行った。
- ・ 子どもたちとの交流はビデオレターや手紙での交流を行っている。
- ・ 施設内でもフロアごとで行事を行っている。
- ・ ボランティアの方や婦人会の方の主催で自主的な集まりを行っている。
- ・ 発熱でサービスを受けることができない方に必用に応じて弁当を届けたり、バイタルチェックを行うなどできることを行っている。
- ・ 今までの利用者と支援者との関係性でコロナ禍でも変わりなく相談することができる関係作りができています。

○保育施設

- ・ 感染予防(マスクをつけるなど)をしながら子どもたちの免疫力をつけることや食育を伝えることを目的として散歩や異年齢児交流を実施している。
- ・ 感染予防をしながら職員同士で集うことや行事などを工夫して行っている。
- ・ 園内での職員研修の実施。

[今後の課題]

- ・ 様々な制度が必要な時に必要な人に権利として受け取ることができる社会をどう作っていけるか。
- ・ 格差社会、医療の切り捨て、貧困、コロナでの格差などが重なって起きている社会の中で根本的な制度の見直し。
- ・ 地域の問題を一人の問題としてどう捉えていくのか。
- ・ プライバシーなどの問題がある中で人と人が繋がる工夫。
- ・ 制度も必要だが、人が制度を動かすきっかけとなれるよう、人がどう動いていくかが大事になってくる。
- ・ コロナをどうセツルメントに繋げていくか。
- ・ 管理的になっている社会をより良い地域社会にしていく為に何が出来るか。
- ・ 狭い地域での繋がりはあるが、広い範囲での繋がりは薄い。私たちができること

を考えていかないといけない。

- ・ コロナの不安から差別が生まれている。自己犠牲や他者に監視的になっている世の中で自己責任が問いつけられている。
- ・ 基礎構造改革を考え直す時期。
- ・ 監視にならない仕組みをどのように作っていくか。問題の共有、痛みを分かち合う対策と力を合わすことの両立が大切。不安と一緒に考える道筋を作っていくといけない。

[地域福祉施設としてできること、やっていかないといけないこと]

- ・ 繋がり作りとして地域で連携していくことが必要となってくる。
- ・ 地域で起きている問題を、自分たち（地域福祉施設職員）でできること、行政でしかできないことを整理していく必要がある。
- ・ 起きている問題を見える化して柔軟に取り組んでいく必要がある。
- ・ 感染の恐怖を抱えている人々の思いを聴いてこれからどう過ごしていくかを歴史の中から学んでいくことが大切になってくる。
- ・ 情報を出し合い生きる力、どう生きるか、生き延びる工夫の話し合いが必要。
- ・ 地域の拠点となる施設（高齢者施設、障がい者施設、保育園）が横で繋がり、声を掛け合い、連携を進めていく呼びかけをしていき、個別の施設でできること、一緒にできることを考えていく。（役割分担）
- ・ 地域で繋がっている所が連携して協同していくことが必要となる。
- ・ まずは行政が支えることが大切だが、みんなで支えていく仕組み作り（ボランティア精神）も大切になってくる。
- ・ 子どもの声を代弁し、地域の問題をみんなで考えていく必要がある。

IV. 地域の子育て支援研究会

① 目的

- ・ コロナ禍の今だからこそできる子どもたちの好奇心を育む保育の工夫やアイデアを出し合い、より充実した保育を実現する。
- ・ 職員同士が気軽に集える場を目指す。

② 事業報告

(1) 研究会の開催

○ 7月7日（水）ミーティング（ZOOM）

○ 12月15日（水）ミーティングと情報交換（ZOOM）

○ 1月19日（水）テーマ学習：「違いを認め合う保育について」（ZOOM）

※添付の報告書を参照

○ 3月10日（木）今年度の反省（ZOOM）

- ・ ZOOMでミーティングをしてみて、メリットデメリットを感じた。

- ・ 「違いを認め合う保育について」は、来年度も学習会を行い、より理解を深めていきたいと考えている。
- ・ 広報誌や情報交換も継続していきたい。

(2) テーマ学習会の報告

○日時：2022年1月19日（水）ZOOM 学習会 13：00～14：00

○テーマ学習：『違いを認め合う保育について』

【テーマに至った経緯】

身体的な違いや文化の違い、個性や貧富の差など子どもたちが育つ中で必ず“自分とは違う人（考え）”と出会うだろう。“違い”と出会った時にそれらをあたりまえに捉え尊重するか、異質に感じてしまい受け入れられないかでは、それからのその子の生活の豊かさは大きく変わるだろうと考える。

子どもたちが育っていく中で人との違いを“違って良い”と思い“ありのままの自分”を表現しそれをあたりまえに周囲に認められ、そして子ども自身も人との関わりの中でそれぞれの違いを尊重し、受け入れ、認め合えるようになってほしいと願う。

とはいえ子どもたちの育つ過程の中では知識経験の乏しさから人との違いに驚き恐怖を感じて否定してしまったり、「自分とは違う」と無関心になってしまう事もあるのではと思う。根幹の部分是人との違いを受け入れる事を目指しどう保育者が子どもに寄り添い見守っていくか？であるが、人との違いを“違って良いんだよ”と伝える為の環境の工夫や保育に取り入れている様々な教材行事での願いなど、各施設ではどういった取り組みをされているのか。今回は文化や国籍の違いについて、まずは関わる大人が理解を深め、子どもたちへ伝える方法を学びたいと思う。

日々の保育の中で様々な違いに触れ、他者理解を深める中で“違って良い”と感じ生活し、また新たな違いに出会った時に「そんな事（人、考え）もある」と捉え受け入れ、自身の思いも表現できるようになるのでは！そう願いテーマ設定に至る。

- ・ 学習会では外国にルーツのある家庭と関わっている保育士さんからたくさんのお話を聞くことができ、充実した情報交換になった。
- ・ 言葉が通じないため、保護者とコミュニケーションをとることが難しく翻訳機を用意して対応したり、手紙などの配布物には、すべてルビを打つなど、丁寧な関わりを心がけてきたという現実を知った。また、見た目が違うことで周りの子どもが疑問に感じ、「なぜ？」と聞いてきたり、話題になった時どのように答えたらいいのかを事前に親と子どもに意向を聞いているとのことで、気持ちに寄り添った関わりをされていると感じた。

【外国にルーツのある家庭から保育園に対しての要望を一部ご紹介】

○宗教上の理由等で給食で豚肉を食べさせないでほしい。

牛肉や大豆ミートはOK!

○肌を見せてはいけない→着替えは別室で行う。

○「いただきます」の挨拶の時に、手を合わさせないでほしい。

○男児が排泄をする時、座らせてほしい。

- ・ これらの要望に対して、どのように関わって対応してきたのかを実際に聞きなが

ら、日本の文化でも食事の時にどうして手を合わせて挨拶をするのか？ 今まであたり前に行ってきた習慣について改めて考えたり、季節ごとの行事について、どのような意味があるのかを考える機会になった。多文化を知る前に、まず、日本の文化について考えてみようということで、保育の中に取り入れている日本の文化を意識した行事や伝承あそびなどを出し合った。

- ・ 行事やあそびの中だけではなく、食事の中にも、日本の文化を見つけ、情報交換は盛り上がった。例えば、お彼岸にはおはぎ、冬至には南瓜を食べるなど給食に取り入れられていた。
- ・ 伝承あそびでは、運動会に向けて荒馬や戸板登り、竹のぼりをしたり、年中年長児がコマやけん玉に取り組んでいたりと昔あそびを継続的に楽しんでいる話が出た。
- ・ 多文化にも目を向けてみよう！ということで、保育に取り入れている多文化のあそびについて話し合った。積み木コーナーに世界遺産の写真を貼って組み立てられるようにしたり、絵本や図鑑、かるたで国旗に触れる機会をつくっている保育園があった。給食に世界の国のごはんを取り入れ、その展開で世界地図を見て国を確認している取り組みもあった。

【情報交換を終えて】

- ・ 人との違いについて、保育士が理解を深めることで、子どもたちが“違いに出会い、疑問に思った時に、一緒に考えることができると思われる。違いを受け入れることは、成長すればするほど難しくなるため、乳幼児期から経験できるように保育の中で工夫する必要がある、それがすべての子どもたちの幸せに繋がると感じた。
- ・ まだまだ各施設の多文化の取り組みはあると思うので、視野を広げるためにも継続して、このテーマで学習会を行っていく。

【広報について】

- ・ 今回のテーマで広報パート2を作成し各施設に配布する。（ホームページにて）
- ・ 地域の子育て支援研究会の活動を知ってもらうことで、研究会の“輪”が広がり仲間を増やしていきたい考えている。

育徳園保育所 森井

9. 職員厚生部

①ねらい

- ・ 施設間の職員交流を深める。

②活動報告

- ・ 夏を迎える会（7月頃）、夏を惜しむ会（9月頃）、忘年会（12月）、新年会（1月）などを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、大人数での会食を避ける、という観点から全て中止とした。

10. 広報宣伝部

① ねらい

- ・ 季刊誌、ホームページ及びメーリングリストを使い、大地協の取り組みを、活動に協力、賛同いただいている方々（加盟施設、個人会員、利用者等）に報告する。

② 活動報告

- ・ メーリングリストを利用して、加盟施設及び個人会員に、役員会の報告、業務連絡や研修の案内を随時送信した。
- ・ ホームページに、各研究会の案内及び報告、日地協の全国研修の案内などを随時掲載しました。
- ・ 季刊誌大地協ニュースをホームページにて掲載しました。また大地協の取り組み、活動に協力賛同いただいている方々（加盟施設個人会員大学、図書館、関係機関等）に季刊誌大地協ニュースを郵送にて報告した。

2021年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支決算書

(1枚目/3枚中)

科目		決算額	予算額	増減(△)	備考
収入	正会員会費	510,000	675,000	△ 165,000	
	個人正会員会費	60,000	45,000	15,000	
	調査研究・研修事業収入	270,000	210,000	60,000	
	まちづくり事業収入	0	0	0	
	スポーツ文化的事業収入	0	10,000	△ 10,000	
	自然体験事業費	2,755,900	2,300,000	455,900	
	小中高生の生活体験事業収入	34,600	100,000	△ 65,400	
	寄付金収入	180,000	110,000	70,000	
	受取利息	69	55	14	
	雑収入	49,430	10,000	39,430	
	拠点区分繰入金収入	1,737,780	1,961,800	△ 224,020	
	積立金取崩収入	0	0	0	
	収入合計	5,597,779	5,421,855	175,924	
支出	事務費	301,774	250,500	51,274	
	会議費	37,528	150,000	△ 112,472	
	会費	63,000	110,000	△ 47,000	
	調査研究・研修事業費	101,560	280,000	△ 178,440	
	まちづくり事業費	0	0	0	
	スポーツ文化的事業費	0	0	0	
	自然体験事業費	3,118,476	3,611,300	△ 492,824	
	管理費	120,000	152,400	△ 32,400	
	バス燃料	1,760,000	2,000,000	△ 240,000	
	備品・器具	339,790	600,000	△ 260,210	
	修繕費	96,000	100,000	△ 4,000	
	保険料	92,250	420,000	△ 327,750	
	光熱水費(職員)	399,571	110,400	289,171	
	固定資産税	73,000	161,500	△ 88,500	
	自治会協力費	10,000	12,000	△ 2,000	
	ワーフキャンプ経費	75,458	55,000	20,458	
	雑費	152,407	0	152,407	
	小中高生の生活体験事業費	81,844	110,000	△ 28,156	
	雑費	67,544	80,000	△ 12,456	
	予備費	0	200,000	△ 200,000	
	拠点区分繰入金支出	1,737,780	1,961,800	△ 224,020	
	積立金積立支出	0	0	0	
支出合計	5,509,506	6,753,600	△ 1,244,094		
収支	収支差額	88,273	△ 1,331,745	1,420,018	
	前年度繰越金	2,112,350	2,112,350	0	
	次年度繰越金	2,200,623	780,605	1,420,018	

2021年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支決算書

(2枚目/3枚中)

Table 1: Income and Expense Statement for '拠点' (Base). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 2: Income and Expense Statement for '事務局/職員厚生部/広報宣伝部' (Administration/Staff Welfare/PR & Promotion). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 3: Income and Expense Statement for 'SP(印)' (SP (Seal)). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 4: Income and Expense Statement for 'SP(印)' (SP (Seal)). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 5: Income and Expense Statement for '拠点' (Base). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 6: Income and Expense Statement for 'ワークキャンプ' (Work Camp). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 7: Income and Expense Statement for 'SP(印)' (SP (Seal)). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 8: Income and Expense Statement for '地域の子どもたち' (Local Children). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 9: Income and Expense Statement for '拠点' (Base). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 10: Income and Expense Statement for 'ワークキャンプ' (Work Camp). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 11: Income and Expense Statement for 'SP(印)' (SP (Seal)). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

Table 12: Income and Expense Statement for '地域の子どもたち' (Local Children). It lists various income and expense items with columns for '決算額' (Actual), '予算額' (Budget), and '増減(△)' (Change).

NPO法人 大阪市地域福祉施設協議会 財産目録

2022年(令和3年)3月31日 現在

(3枚目/3枚中)

種類	場所等	使用目的	金額
預金	りそな銀行 萩ノ茶屋支店 普通預金口座 (やまと保育園)	会費受け入れ、支払い等	1,560,654
預金	りそな銀行 萩ノ茶屋支店 普通預金口座 (やまと保育園)	山の家 支払い等	639,470
預金	三菱UFJ銀行 大阪恵比寿支店 普通預金口座 (やまと保育園)	山の家 支払い等	426
預金	近畿大阪銀行 長居支店 普通預金口座 (長居保育園)	琵琶湖セツルの家関係	0
預金	ゆうちょ銀行 四〇八店 普通預金口座 (やまと保育園)	修繕積立金	6,000,073
現金	小口現金 (大國保育園)	本部経費 支払い	0
現金	小口現金 (わかくさ保育園)	本部経費 支払い	0
現金	小口現金 (育徳園保育所)	企画委員会経費 支払い	0
現金	小口現金 (地域のこども研究会)	地域のこども研究会経費 支払い	0
現金	小口現金 (長居保育園)	琵琶湖セツルの家関係 支払い	0
土地	セツルの家 土地 623.03平米	セツルの家駐車場	30,000,000
資産合計			38,200,623

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
会長 倉光 慎二 様


NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会の監査結果について

帳簿、領収証等精査した結果、適性に処理されていることを確認いたしましたことをご報告いたします。

2022年5月10日(火)

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

監事

宇田 正三 

監事

篠瀬 実千代 